



役に立てる 幸せ

心あったかニュース

NMCAA
NO3

人間の幸せとは何か？2013年にNHKで放送されたクローズアップ現代の「団塊パワーを活用せよアクティブシニアが地域を変える」にそのヒントがあるように思えましたのでご紹介します。千葉県柏市は、団塊シニアを地域に取り込んでいくため、東京大学などと協力して、“生きがい就労”という取り組みを行っています。生きがい就労では、まず、地域活動に参加したいという団塊シニアに集まってもらい、そのうえで今、地域では、農業の後継者不足や、子育て支援、高齢者介護の人手不足が切実であることを説明します。こうした地域の重要な課題解決に、団塊シニアの力を貸してほしいと頼むのです。さらに、ボランティアではなく、働いてもらった対価として、賃金を支払います。生きがい就労を考えた東京大学の秋山弘子特任教授は、多くの方たちは、自分はむしろ、支える側になりたい支えられるよりもです。支えたい側になりたいたいと思いつつも、その活躍の場がない。

すべての人が社会の支え手になつていく。それが持続可能な長寿社会の、ひとつの大きな要件だと思いませんか。」と言います。生きがい就労に参加している大川原さんは3年間、家に籠もりがちだったといいます。現役時代は、大手建設会社に勤めていました。仕事に没頭する生活でした。定年後、待ち受けていたのは、何のあてもない日々。知り合いもおらず、世界が狭まっていくような不安を感じました。妻と話をするだけ。そうすると、声は小さくなるし、体力落ちる、知力も落ちる。何かやりたいと思つたことも、ほかに思い浮かばない。奥さんからすすめられて、生きがい就労を調べてみると、子育て支援や介護など、地域が切実に人を求めていることが分かりました。試しに面接を受けたところ、担当者から言われたことばが、大川原さんの心を動かします。“あなたの科学の知識を、ぜひ貸してほしい。”久しぶりに人から必要とされた喜びに、生きがい就労への参加を決めました。始めたのは、小学生向けの塾の講師です。現役時代、の設計の知識を生かして、コンピュータのプログラミン、グや、ロボットカーの組み立てなど、科学の知識を深める授業を担当しています。

子どもたちが待っている。それに対しては、現役時代と同じように責任を果たさなくちゃ。」と思えます。で、やっぱり楽しんでもらいたいし、楽しみつつ、いろいろな知識を身につけてもらいたい。」と何もしていなかつたときは劇手に変わらなるといい表情で大川原さんは言います。

編集後記

生活がある程度安定した時、私達の心を満たすものが、誰かの役にたちたいというところだと思えました。現代のストレス社会では、定年後までとっておくものではなく、現役時代からも必要で、誰かのためになることは、私達が心の奥で求めている成りたい自分なのだと思います。